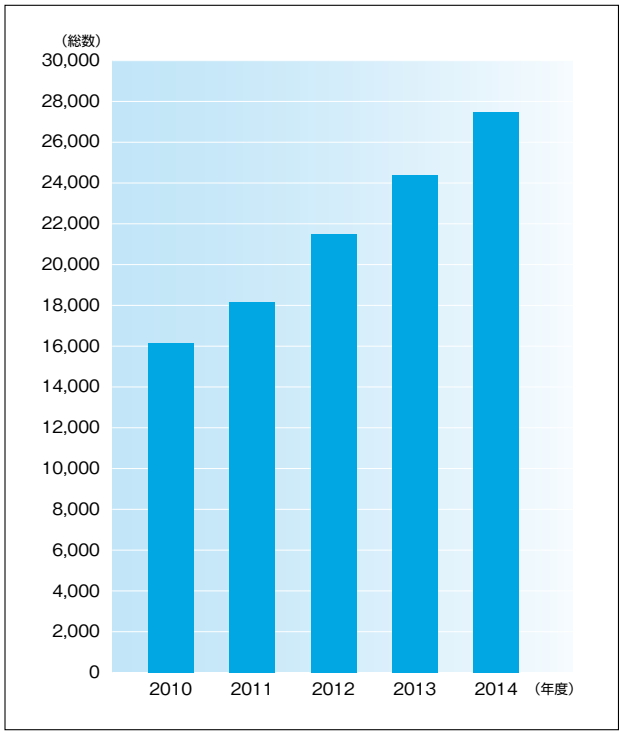
早稲田大学リポジトリ（DSpace@Waseda University）の動向と進捗

1 現状

早稲田大学リポジトリ（DSpace@Waseda University、以下、リポジトリ）の特徴は、全登録コンテンツとして学術成果の本文全文を掲載しているという点にある。この方針については2005年のリポジトリの一般公開時より変更はない。

過去数年、年間2,000～3,000件程度の推移で増加している学術成果の登録コンテンツ数であるが、2014年度についても前年比で3,123件の増加となり、安定的・継続的にコンテンツ数を増やすことができた。（図①「登録コンテンツ数の推移」参照）

図①　登録コンテンツ数の推移



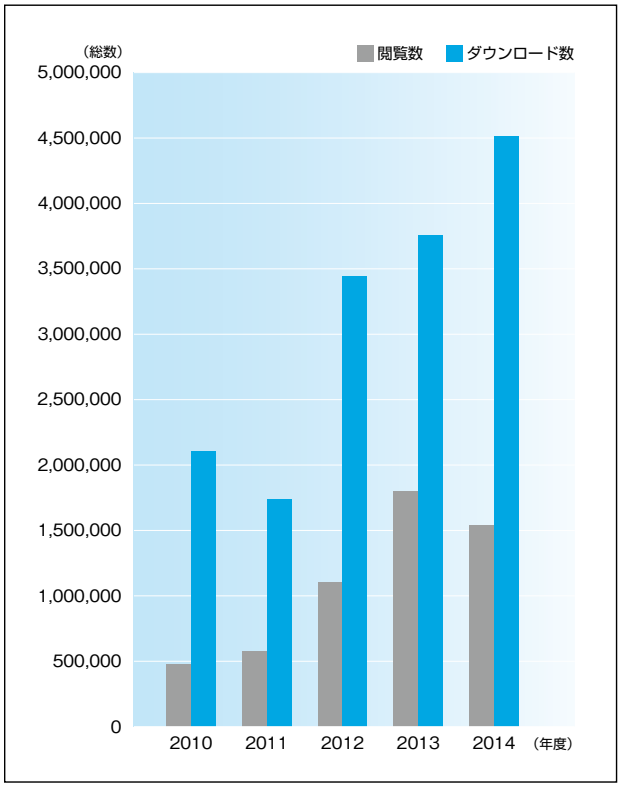
タイプ別コンテンツ数では、紀要論文が15,923件と登録コンテンツ数全体の6割近くを占める状況となり、なお紀要論文は増加傾向にある。（2013年度は紀要論文の全体に占める割合が53.1%であったのに対して、2014年度は57.4%まで上昇している。表①「タイプ別コンテンツ数」参照）

閲覧数・ダウンロード数については、2012年度よりSolrという検索システムを使ったアクセス統計に変更したことに加え、2013年6月よりロボットを排除するなど統計取得の方法を変更したこともあり、変動は生じているものの、2014年度は閲覧数で150万件、ダウンロード数で450万件を超え、全体的に見れば増加傾向にある。（図②「リポジトリコンテンツ閲覧・ダウンロード数の推移」参照）

2 2014年度の特徴的な事項

2013年4月1日に学位規則が改正されたことにともない、電子化された博士論文をインターネットにより公表することが原則義務化されたことに対応するため、2014年度はこれまでのリポジトリへの登録ワークフローを見直し、より短期間で博士論文を搭載、公開することとした。なお、2013年度に授与された博士論文のうち、やむを得ない事由等によりリポジトリでの本文PDFの公表ができない博士論文を除いた全本文（2013年9月までに授与された博士論文79件、2014年3月までに授与された博士論文166件）を登録し、国立情報学研究所のJAIRO[i]、国立国会図書館サーチ[ii]でも検索可能としている（2015年4月現在）。

図②　リポジトリコンテンツ閲覧・ダウンロード数の推移



表①　タイプ別コンテンツ数

タイプ	登録コンテンツ数	全体に占める割合（%）
学術雑誌論文	318	1.15%
学位論文	3,734	13.47%
紀要論文	15,923	57.43%
会議発表論文	1,564	5.64%
会議発表資料	13	0.05%
図書	4,837	17.44%
テクニカルレポート	63	0.23%
研究報告書	437	1.58%
一般雑誌記事	13	0.05%
教材	791	2.85%
その他	35	0.13%
計	27,728	100.00%

（2014年度末現在）

3 今後の課題

引き続き、コンテンツ（学術成果）を増やしていくための働きかけを積極的に行い、リポジトリを基盤とすることにより本学の学術成果の視認性を高めていく必要がある。

また、この間、オープンアクセスを取り巻く環境に関して、大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議機関リポジトリ推進委員会[iii]より大学図書館に情報提供された2点の動きを挙げておきたい。

1点は、「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」（内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）開催）で検討され、我が国のオープンサイエンス推進に関する基本的な考え方としてまとめられた報告書「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について～サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け～」[iv]であり、これを受けては、大学としてのオープンアクセス方針等とその実施に向けての具体的な運用計画の策定が求められることが予測されるとされている。

もう1点は、平成26年度分より文部科学省科学研究費補助金の実績報告書に成果論文のオープンアクセス化の有無のチェック欄が設けられた点であり、研究資金配分機関もオープンアクセス推進の取り組みに着手していることから、その動向を注視していく必要があるというものである[v]。

注　記：
i http://ju.nii.ac.jp/
ii http://iss.ndl.go.jp/
iii https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/
iv http://www8.cao.go.jp/cstp/sonota/openscience/index.html
v http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/16_rule/index.html